



ガリガリ君 E-mail 通信

令和5年8月(第178号)

下水道既設管路耐震技術協会

下水道展特別号

8月1日より4日までの4日間、札幌ドームにおいて下水道展‘23札幌が開催されています。また、9月1日防災の日を前に、震災関係のイベントも予定されています。

○ 下水道展札幌の開催状況

昨年市制施行100周年を迎えた札幌市で、東京より北では初めて開催される「下水道展‘23札幌」が、299社・団体の出展により8月1日からスタートしました。

初めての札幌市での開催で、どの程度の来場者が見込めるのか見当がつかない中でのスタートでしたが、1~2日目の来場者は当初の想定を大きく上回り、主催者発表で

1日目 7,066人、

2日目 8,536人、

累計 15,602人と、

コロナの影響があったとはいえ2日目まで、

‘22東京 14,801人 ‘21大阪 6,380人を上回る来場者数となっています。また、当協会のブースが子供たちの集まるパブリックゾーンに近い関係か、親子連れの来場者が非常に目につきました。

本協会は今回、写真-1のように2小間の大きさで出展しています。現在札幌市でフロートレス工法によるマンホール浮上抑制対策の工事を行っており、また1993年の釧路沖地震、2003年の十勝沖地震で多くの液状化による被害があったことから、フロートレス工法の紹介や液状化実験を中心に3工法の紹介を行っています。



写真-1 本協会のブース



写真-2 会場内の様子

◆◆◆◆ 下水道展点描 ◆◆◆◆



お爺ちゃんと一緒に液状化の勉強です



液状化実験は子供たちにも大人気、お母さんも子供につられて興味しんしんです



札幌市のブースでフロートレス工法の説明がされていました



インドネシアの皆さんも興味を持って、熱心に質問されていました



後方は外野の観客席です協会ブースはセンターのフェンス際の位置です

○ 「関東大震災 100年シンポジウム」が開催されます

「関東大震災を見て、感じて、未来への備えにつなげる」をテーマに、国土交通省の主催で、関東大震災 100年シンポジウム、関東大震災特別企画展が開催されます。

- 日 時：8月28日(月) 14:00 ~ 17:30
- 会 場：東京ビッグサイト国際会議場
- 内 容：基調講演1「関東大震災がつくった東京：100年後の変容と首都直下地震」
講師 武村雅之氏(名古屋大学 特任教授)
基調講演2「失敗しない首都直下地震対策に向かって」
講師 河田恵昭氏(関西大学 特別任命教授)

パネルディスカッション「関東大震災から学ぶ、今後の都市・インフラ整備」

- コーディネーター 山崎 登氏 (国土舘大学教授・元NHK解説委員)
- パネリスト 加藤孝明氏 (東京大学教授)
- 久田嘉章氏 (工学院大学教授)
- 小室広佐子氏 (東京国際大学教授)
- リチャード・ク-氏 (株式会社野村総合研究所)
- 谷崎馨一氏 (東京都都市整備局長)
- 吉岡幹夫氏 (国土交通省技監)

参加を希望される方は、8月10日までに国土交通省のホームページより申し込みください。

事務局よりのお知らせ

○ 「耐震一発くん」の講習会、研修会を実施しました

「耐震一発くん」の施工管理者講習会・施工技術者研修会を、下記の日程・会場で実施しました。

- ① 施工管理者講習会
 - 開催日時：7月4日(火)、5日(水)午前
 - 会 場：「草加市立新里文化センター」
 - 受講者：新規取得者 22名 (他に自動更新者 37名 計59名)
- ② 施工技術者研修会
 - 開催日時：7月4日(火)、5日(水)午後
 - 会 場：「(株)メーシック谷塚事業所」
 - 受講者：5社20名



写真-3 講習会の様子



写真-4 研修会の様子

編集後記

- ・今月は下水道展特別号を少し遅れての配信となりました。事務局も準備を含めての5日間を2人交代でブースでの対応を行っています。今回は北海道のハイシーズンでの開催となりましたが、国体・インターハイの開催、手稲でのサマージャンプ大会の開催が重なり、更にインバウンドの方々が札幌の街を占拠し、どの出展者も宿や航空券の確保に四苦八苦されたようです。

- ・今月の写真は下水道展の会場となっている札幌ドームです。

巨大な宇宙船を連想させるメタリックな外観を持つドーム球場です。グラウンドを展示会場としていますが、野球の好きな方はめったに降りることのできないグラウンドからの光景や、入ることのできないブルペンなどの施設を楽しんでいました。